

令和5年度 第1回三島市図書館協議会 会議録 [概要]

1 開催日時

令和5年7月6日(木) 午後1時30分から午後2時40分まで

2 開催場所

生涯学習センター5階 スタッフ室

3 出席者

(1) 委員(順不同)

段 千恵子、白井 由美子、西山 敦子、竹山 美奈子、小川 高明、梶 一純、
西島 真美 計7名

(2) 事務局

小塚教育長、鈴木教育推進部長、渡辺館長、下館館長補佐、中島館長補佐、市川主幹、
志村主任司書、木本主任司書、越沼主任司書、菊地主任

4 会議の公開・非公開の別

公開

5 傍聴人の人数

0人

6 会議の内容

(1) 委嘱状・任命書交付

(2) 開会

(3) 教育長挨拶

(4) 委員紹介

(5) 正副会長選出

(6) 会長挨拶

(7) 職員紹介

(8) 議事

① 令和4年度図書館利用状況について

② 令和5年度図書館事業計画について

議事①及び②について事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

(委 員)	昨年度の図書館講座は、会場参加とオンライン配信のハイブリットで開催したのか。
(事 務 局)	昨年度は、講師の意向と著作権の問題などがあり、会場参加のみで開催した。今年開催する講座は、ハイブリットを予定している。主催者としては、講演が終わった後に図書館に足を運んでもらいたいという思いもある。

(委 員)	技術的な面は、回数を重ねていくうちに慣れていくと思うが、実際にハイブリットをやってみて、オンライン参加の割合はどのくらいだったのか、次回に教えてほしい。
(委 員)	オンライン配信は、リアルタイムか。それとも、アーカイブか。
(事 務 局)	初めて実施したときは、リアルタイムでオンライン配信し、後日、会場を準備して上映会も行った。
(委 員)	昨年12月に自動貸出機等を導入したが、統計上の変化はあったか。
(事 務 局)	昨年度の自動貸出機の利用率は約6割であり、概ね好意的に受け止めていただいているように思う。職員と接する機会が少なくなって寂しいという意見もあるので、様子を見て声かけするよう努めている。
(事 務 局)	自動貸出機の利用率は、県内でも高いほうだと聞いている。
(委 員)	自動貸出機の使い方が分からなくて困ったという声はないか。
(事 務 局)	大半はスムーズにお使いいただいていると思うが、端末の画面は、まだ工夫の余地があると感じている。
(委 員)	自動貸出機では、貸出カードは最後にスキャンするが、以前は最初にカードを提示しており、順序が異なるので最初は戸惑うかもしれない。
(委 員)	自動貸出機について、子どもの利用率についてのデータはあるか。
(事 務 局)	年齢別の統計は取っていない。児童は、ひとりあたりの貸出冊数が多いので、冊数で考えた場合の利用率は高いのではないか。
(委 員)	自動返却機には、本を1冊ずつ入れなくてはならないのか。
(事 務 局)	本に貼付してあるICタグが多少ずれていれば、同時に入れても読み込みは可能だが、読み抜けが生じる可能性が否定できないので、1冊ずつ入れていただくようお願いをしている。
(委 員)	学校図書館に足を運ぶ子どもは非常に多いが、地域の図書館に行くと本を借りるとなると課題がある。本校でも、地域の図書館と学校を身近な関係にしたいと考え、今年は、中郷分館の司書にブックトークに来てもらうことになっている。
(委 員)	地域の図書館への、距離的な問題もあると思う。
(委 員)	学校などで、三島市の図書館のホームページの利用法を学ぶ機会があれば、事前に本を検索しておいて、土日にバスで足を運ぶという流れができるのではないか。「図書館を身近に」という観点から、ホームページが活用されるといいと思う。 ブックスタート事業の参加者割合が69.2%とあるが、離乳食講習会への参加率と同じと考えてよいか。

(事務局)	離乳食講習会には参加しなかったが、後日、図書館にて本をお渡しできた方も数に含んでいる。
(委員)	離乳食講習会には、2人め3人めの子どもになると、忙しくて行けなかったりする。引っ込み思案だったり、初めての子育て中でなかなか外に出られない母親こそ、絵本との出会いを求めているのではないか。保育園や地域の公民館、あるいは民生委員などの協力を得て、配り方を工夫することで、外出しづらいお母さんに本を届けられたらいいなと思う。自分自身も、絵本を2回受け取って活用させてもらった経験がある。
(委員)	渡せなかった絵本は、どうなるのか。
(事務局)	在庫として管理し、翌年に活用している。
(事務局)	コロナ禍前は、3ヶ月児の健康相談会に合わせて実施していたため、参加率は9割を超えていたが、健康相談会自体が中止になり、配布の機会を離乳食講習会に変更したため、参加率が減ったという経緯がある。
(委員)	対象者名は把握しているのか。
(事務局)	個人情報の問題があり、図書館では対象者の名簿は持っていない。離乳食講習会に参加しなかったご家庭には、健康づくり課を通して案内ハガキを送付している。
(委員)	どうしても受け取りに来ることができない家庭に、本を郵送することは可能か。
(事務局)	ブックスタートでは、既にお持ちの絵本と重複しないよう、コミュニケーションを取りながら渡しているため、なかなか難しい。
(委員)	「図書館概況」を見て、こんなにたくさんの事業をやっているのかと驚いた。子どもが対象の事業が多いように感じたが、理由はあるか。
(事務局)	子ども時代に本が身近にある環境を整えることが、読書習慣につながると思っているため、自力では来館できない子ども向けの事業が多くなっている。サービスの対象人数としては、大人のほうが多い。
(委員)	子どもの施設としては認定こども園などもあるが、訪問サービスは保育園が対象なのか。
(事務局)	「第3次三島市子ども読書活動推進計画」の策定にあたり、保護者を対象にアンケートを実施したところ、幼稚園に在籍している子どもよりも、保育園に在籍している子どものほうが、家庭での読み聞かせの回数が少ないという結果であった。また、幼稚園には移動図書館車が巡回しており、フォローの機会があるため、まずは保育園での読み聞かせを充実させたいと考えた。

③ 視察研修について

事務局より説明の後、静岡市立中央図書館に視察を依頼する方向で決定した。

④ その他

事務局報告及び質疑応答・意見は次のとおり。

(事務局)	6月13日に開催された生涯学習センター運営委員会の席上にて、三島市立図書館には漫画本を置いていないが、取り扱いについて改めて研究してほしいという意見をいただいた。三島市が漫画本を置いていないのは収集方針に基づいてのことだが、漫画本を購入している図書館もあるので、今後、周辺市町の状況を取りまとめ、委員の皆様に変更のご意見をお伺いしたい。
(委員)	日大の図書館には、漫画は置いてあるのか。
(委員)	少しだけ置いてある。選定基準は、特に定めていない。
(委員)	三島市では収集しないことにした背景や、他館が漫画をどのように取り扱っているかなどをまとめて、次回、報告をお願いしたい。
(委員)	漫画といっても様々だが、学習漫画を想定しているのか。
(委員)	そのあたりも含めて調査が必要。歴史ものや伝記ものであれば、読む子どもも多い。
(委員)	歴史漫画は学校図書館にもあり、子どもたちも好んで読んでいる。
(委員)	子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけになるかもしれない。ぜひ検討をお願いしたい。

(9) 閉会